

長柄小だより

考えて行動できる子
～自立・創造
しなやかな心～

令和6年度 第12号
2024年12月16日
葉山町立長柄小学校
校長 長谷川 泰子
TEL 046-875-6860

学校評価アンケートへの取り組み お願いします

新年度に向けた葉山町のスクールミッションでは、従来の習わしにとらわれることなく積極的に新しい物事に取り組んでいくことを目指しています。社会の変化とともに、教育の基本的なスタンスも、教員による一方的な「指導」から、子どもの自律を促す「支援」へと変化しています。学校は子ども中心でなければなりません。

今年度は学芸大学と研究の連携協定を結び、新しい学びに即した学校評価の在り方を研究してまいりました。子ども自身が自らの資質・能力を意識できるように、また、ウェルビーイングの視点を取り入れ、子どもと子どもを取り巻く環境の状況を把握し、教育現場に活かしていけるような項目の作成に挑戦しております。「学校がどのような教育を提供しているか」という視点で行われがちだった学校評価から、「子どもの姿」を中心に目指す教育が実現されているかを測れるものにしていきたいと考えています。

研究半ばではありますが、ぜひ本校の新しい試みであるこの学校評価へのご協力をお願いいたします。(今年度の項目は研究段階ですので、今後も結果等を分析しながら改善していく予定です。また、低学年(1～3年)と中学校は来年度以降に検討いたします。)

実施期間

12月16日～24日

アンケート方法

グーグルフォーム
本日コクーで配信
します

対象

4・5・6年児童と
その保護者 教職員

アンケート結果

2月に報告

ウェルビーイングの視点を入れた
質問項目
学校生活、家庭、友人といっしょの
ときの3つの場面で聞きます。

学校生活であなたが感じている気持ちについて当てはまるものを1つ選んでください。

1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

16	学校では	幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。
17		楽しいと感じることはどれくらいありますか。
18		何かにイライラすることはどれくらいありますか。
19		不安な気持ちや心配な気持ちになることはどれくらいありますか。
20		自分でものごとを考えて決めることはどれくらいありますか。
21		自分の意見を人に伝えることはどれくらいありますか。



南郷中の生徒会メンバー
6年生に説明に来てくれました



生活リハビリクラブの方たちは
お掃除に来ていただきました



1月の行事予定

2・3・6年生 音楽集会

1	水	元旦
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	
8	水	年始の集い 短縮3時間(下校 11時)
9	木	短縮4時間(下校 11:55) 5年もちつき
10	金	給食開始 短縮5時間(下校 13:45)
11	土	
12	日	
13	月	成人の日
14	火	通常授業開始
15	水	新入生保護者説明会
16	木	朝の集い(選挙説明会) 全校 5時間授業(水日課) (下校 14:25)
17	金	委員会活動⑥ 選挙活動スタート
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	
23	木	運営委員会立合演説会(5時間目)
24	金	クラブ活動⑥(最終)
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	3年宇宙アサガオリレー式
31	金	



タブレットの使い方の見直しをしました

先週木曜日、全校で集まった集会の折に、ゲーム感覚でタイピング練習をする人が増えたこと、また、タブレットに費やす時間が学校内でも長くなってきていることから、タブレットが脳に与える影響やネットの世界の危険性を伝えた上で以下のように確認しました。

タイピングコロシウムはタイピング練習と言いながらもゲーム性が強くそれを楽しんでいる様子が多いので、使用を全校でやめます。代わりにタイピング練習ができるサイトを今後示すので、授業で打ち込みができることを目的として使いましょう。また、スクラッチについてもプログラミングの授業内で使うもので、隙間時間や休み時間に先生の指示なく使うこともしません。

子どもたちの反応としては、1, 2年生は「何のこと?」という感じでしたが、3年生から上は「え?」「ダメなの?」「「…………」」「仕方ないよね。」と反応それぞれでした。「自分で考えて行動する」とはいえ、大人が管理しなければいけないところもかなりあるのがタブレットの使い方です。

子どもたちに尋ねたところ、おうちの人とネットやゲーム、携帯の使い方をきちんと話し合っているという子どもたちがたくさんいました。これからは、使いながら、デジタルの世界の中でよりよく生きていく力も育てていかななくてはなりません。禁止するだけでなく、様々なアプローチを私たち教員もしていく必要があります。大きな課題です。